

「健康食品分科会(2/28)」

■ 米国・EU・豪州の消費者ニーズに適合した “オーガニック即席めん”輸出の取組

桜井食品株式会社
代表取締役

桜井 芳明

企業概要（桜井食品株式会社）

無添加のオーガニック食品を製造し、オーガニック認証を取得した即席麺を米国・豪州・EU等に展開。

いち早く無添加に取り組み、商品を展開



- 1961年にいち早く無添加への転換を行い、漂白剤や着色料等の添加物の使用を中止
- 1977年のフランスを皮切りに、オランダ、英国、米国、オーストラリア、台湾、香港等15カ国程度に輸出
- 当初は米国OGBAのオーガニック認証を取得した乾麺をオーガニック食品の小売店や一般スーパー向けに展開。現在は有機JASの即席めんを輸出している



国内販売の即席めん 各種

輸出取組の経緯

30年前に価格競争に負け輸出量が減少するも、オーガニック食品に切り替えることで輸出を再開。

輸出専用のオーガニック認証即席ラーメンを展開



- 1977年にフランスから無添加の純正ラーメンの輸出の要望があり、即席ラーメンや乾麺の輸出を開始。現地仕様に変更しながらオランダ、英国、米国、オーストラリアへ展開
- 1990年代に円相場が急上昇したことで、中国製品との価格競争に負け、輸出货量大幅減
- その後、無添加よりもオーガニック食品との要望を受け、オーガニック食品に切り替えて輸出を再開し、輸出専用の即席ラーメンを輸出中

オーガニックへのこだわり

米国、日本のオーガニック認証を取得し、現在は有機食品の同等性で輸出中。 有機原料にもこだわり、自社で農場を保有。

米国、日本のオーガニック認証を取得



岩手県一関市
桜井農場の
小麦畑



- 1998年に米国の有機認証団体OGBAより認証を受け、米国を中心にオーガニック食品を輸出
- 2002年には日本の有機認証団体アイシーエス日本（現ビューローベリタス）より認証を受ける。現在はオーガニック認証機関エコサート（本社フランス）による認証検査を受けている
- 岩手県に有機農場を有し、有機栽培による小麦、大麦、そば、大豆等を輪作営農中

オーガニック即席めんの輸出有望国・チャネル

国内商社と連携し、約20年前から米国全土の現地系小売に展開し、主に白人消費者をターゲットとした輸出を継続中。

現地系小売を軸に白人消費者がメインターゲット



The Fresh Market 様
東海岸
ノースカロライナ州

Berkeley Bowl 様
西海岸
オークランド



- 最大の輸出先国は米国で、西・東海岸双方の小売に向け輸出、The Fresh Market、Whole Foods Market(北加)、Berkeley Bowl (北加) 等にて販売していただいている
- 欧州（オランダ、英国）、オーストラリア、東アジア（台湾、香港）等と広域に15カ国程度引き合いがある
- 米国は日系小売店を含むスーパーへの販路であり、ドイツ、オランダ、フランス、オーストラリアではオーガニック食品の小売店で販売されている。英国では Sainsbury's 等で販売されている

プロモーション取組

国の補助・JETRO支援等を活用し、展示会を通じて現地バイヤーに向けた訴求を継続。

現地の展示会でバイヤーとの関係を構築



jetroさんの
ジャパンパビリオン
にてPR

- 米国東・西海岸の展示会（ナチュラル EXPO）に毎年参加し、着実に販路を構築

- 現地スーパーのブースで売れている商品をリサーチし、今後の展望を検討
- 現地で消費者ニーズを掴み、取引のある国内商社に提案を行ってきた

- 今年もアナハイムで開催されるオーガニック食品の展示会で新商品を出す予定。食べ方提案等を通じて現地の感触のフィードバックを得たい



展示会では
現地の商社様の
ブースにてPR

食の安心・安全への取組

有機JAS認証やISO22000を取得済みであり、現在はHACCP取得を目指している。

日本の有機JAS認証を取得し海外への輸出を実現



- 日本国内で有機JAS認証を取得済みであり、日本で有機JASが整備される前は米国の認証団体OGBAのオーガニック認証を取得して輸出をしていた
- 2010年にISO22000を取得し、今後はHACCP取得に向けて準備中で、月に2回社員向けに勉強会を実施

商品の一例

包材の工夫・規制への取組

米国、オーストラリアはクラフト紙を包材に使用。欧州の包材規制にも今後対応していきたい。

サステナブルなクラフト紙を包材に使用



輸出用
オーガニックラーメンの例

ビーガンを表示
左 米国
右 豪州

- 米国・オーストラリアに向けては包材にクラフト紙を使用
 - ナチュラルな見た目がナチュラル・サステナブルの観点で評価されている
- プラ袋については、ドイツで包材の成分分析を実施し、その結果を利用して欧州へ輸出
- 今後は欧州にもクラフト紙を使用したいが、欧州の包材規制に対応できるメーカーが国内で増えることが望ましい

今後の展望

中東・東南アジアをターゲットにハラールやコーシャの認証取得を目指す。米国ではオーガニックスーパーでの取り扱いを増す。

ハラールやコーシャの認証取得を目指す



ベジタリアン向けの即席めんを
現地仕様に変更を検討



- UAE、サウジアラビア、イスラエル、マレーシア等
中東・東南アジアへの輸出量の拡大に向けて
ハラールやコーシャの認証取得を目指す
 - プラントベースの豚骨ラーメンを開発
- ホールフーズ・マーケットの他地域(北加以外)、
トレーダー・ジョーズ等のオーガニックスーパーで
の取り扱いを増す
- 即席ラーメンに限らず、パン粉等海外でニーズ
があるオーガニック食品を輸出していきたい



SAKURAI FOODS

桜井食品株式会社